

## 事業評価書（事前）

事務事業名		水道施設整備（循環型経済社会の構築など環境問題への対応）				
事務事業の概要	(1)目的	安全で良質な水道水の供給を図る。				
	(2)内容	水道水源開発等施設整備事業（浄水場排水処理施設、高度浄水施設、水質検査施設の整備）				
	(3)達成目標	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">予算額（案）</td> <td style="text-align: right;">11,248百万円</td> </tr> </table> 水道水質の安定化	予算額（案）	11,248百万円		
予算額（案）	11,248百万円					
評価	(1)必要性	<p>[国民や社会のニーズに照らした妥当性、公益性、官民の役割分担、緊急性の有無]</p> <p>水道は国民の生活上もっとも重要な社会基盤のひとつであり、給水人口の増加、生活水準の向上及び都市活動の活発化に対応した水道水源の確保を図る一方、自然の河川、地下水やこれらを取りまく生態系の保全及び近年の水質の悪化や少雨化傾向を踏まえ、健全な水循環系を構築し水の有効利用を図ることが必要である。</p>				
	(2)有効性	<p>[これまで達成された効果、今後見込まれる効果]</p> <p>環境への負荷の軽減                  良好な自然環境の保全、再生                  異臭味被害人口の減少                  民間需要創出効果（直接効果及び間接一次効果） 約652億円                  当該補助事業に対する事業費347億円に生産誘発効果計数1.88を乗じた額。 *「日本経済と公共投資（財）建設経済研究所」により推計。                  雇用創出効果（直接効果及び間接一次効果） 約5千人                  当該補助事業に対する事業費347億円に新規需要額10億円当たりの誘発就業人数136人を乗じた数。 *「日本経済と公共投資（財）建設経済研究所」により推計。</p>				
	(3)効率性	<p>[単年度の費用]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">14年度要望</td> <td style="width: 50%;">総事業費 34,674百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>うち補助金 11,248百万円</td> </tr> </table> <p>[手段の適正性]</p> <p>新規採択にあたっては費用対効果分析を行った上で採択。新規採択後5年を経過して継続中の事業については再評価を実施。</p>	14年度要望	総事業費 34,674百万円		うち補助金 11,248百万円
	14年度要望	総事業費 34,674百万円				
	うち補助金 11,248百万円					
(4)その他 （公平性・優先性など）	近年の地下水汚染の進展やクリプトスポリジウム等の新たな病原性微生物に対応する水道施設の整備が求められている。					
関連事務事業		健全な水循環の形成に関する研究（平成14年度要望） 健全な水循環系を構築するため、居住環境に応じた水の有効利用や地域レベルの節水型水道システム、水道エネルギーの有効利用に関する調査研究を行う。				
特記事項		<p>[第151回国会における小泉内閣総理大臣所信表明演説（平成13年5月）]</p> <p>おいしい水、きれいな空気、安全な食べ物・・・は我々が望む生活。環境への制約を克服する科学技術を開発・普及する。</p> <p>[国会による決議等の状況]</p> <p>平成13年7月4日に公布された「水道法の一部を改正する法律」における衆参両院の付帯決議。                  流域における健全な水循環の視点から、安全かつ良質な水道水の供給を確保するため、水環境の保全・再生に資する施策の充実をはかること。</p>				

	<p>環境への負荷の軽減するため、節水型社会に向けた施策を積極的に進めるとともに、合理的な水需給計画とすること。</p> <p>近年の地下水汚染の進展やクリプトスポリジウム等の新たな病原性微生物、環境ホルモン等に対応するため、水質検査技術の向上と水道水質基準の強化・拡充に努めること。</p>
主 管 課 及 び 関 係 課	(主管課)健康局水道課